



令和3年度

# 学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~

令和4年1月7日

横浜市立高田小学校

**1月号**

## 当たり前の中に

校長 赤坂 桂

2022年、新しい年の始まりです。我慢することが多かったここ1、2年でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大にも少しずつ回復の兆しが見えてきたこの頃です。今年は、明るく前向きに挑戦できる1年となることを願っています。

さて、学校ではずっと延期になっていた各学年の遠足、校外学習が12月末までに終了しました。すべて日帰り県内での活動となりましたが、子供たちはとても嬉しそうでした。私もいくつかの学年の学習に付き添いました。その中から印象に残った光景を紹介します。

5年生は三浦に行きました。城ヶ島公園では島の先端から太平洋の水平線が見渡せました。たまたま隣にいた子がぽつりと「やっぱり海は広いなあ」とつぶやきました。

「海は広い」のは当たり前の知識ですが、実感を伴う言葉に心の動きが現れていて新鮮でした。それから芝生広場で自由時間になったときです。何人かの子が集まって「オニゴやろうぜ!」と盛り上がりました。私は初め、何を言っているのか理解できなかったのですが、見ていると何のことはない普通の鬼ごっこでした。鬼ごっこをオニゴと省略する今時の子供たちの流行を知りました。そして15分程度でしょうか、たくさんの子たちがあちらこちらで無邪気に楽しそうに走り回っていました。そんな様子を見ながら緊急事態宣言中は鬼ごっこすら禁止だったので、子供たちから大切なものを奪っていたのだな、と改めて感じました。

6年生は箱根に行きました。まず楽しそうだったのはバスレクです。係の子が考えてきたクイズや心理テストは私が聞いていても考えてしまうような面白い内容でした。箱根に着くまでずっと続いても、みな飽きずに参加していました。それからお土産屋での買い物です。寄木細工の秘密箱やお菓子など、あれこれ金額を足し算して悩みながら品選びをする姿は真剣そのものです。家族の顔を思い浮かべながら選んだり、自分用の小物を友達とおそろいで買ったりと楽しそうでした。

「鬼ごっこ」「バスレク」「お小遣い」。子供たちの楽しみはこれまで当たり前だったものにこそあり、言葉や態度には出さなくても発散する機会を求めているのだな、と感じました。数少ない行事ではありましたが、今年度の思い出に残ってくれることを願っています。

令和3年度も残り3か月弱となりました。一日一日を大切にして学校ならではの経験ができるよう、教職員一同新たに努力してまいります。今年もよろしくお願いいたします。